

森林総合監理士フォローアップ (目標林型と森林施業) 研修

平成27年10月21~22日

秋空のちょっと肌寒い10月下旬、関東森林管理局森林技術・支援センターが試験研究を行っている試験地に「森林総合監理士の資質向上を図るため、目標林型の設定と目標林型に応じた森林施業方法に関する最新技術の知識及び技術について習得させる。」研修目的のため、森林技術総合研修所で研修中の地方公共団体職員及び各森林管理局職員12名が現地実習等に一泊二日に来ました。

平成27年10月21日(各現場で実習)

● 筑波山複層林試験地では、当センターから複層林設定に至った経緯や複層林全体の概要説明、各試験区域ごとに設定内容の説明を昼食を挟みながら行いました。また、研修講師の森林総合研究所群落動態研究室主任研究員(太田敬之さん)と研修生とディスカッション等を行い、複層林造成の難しさを実感してもらえたのではないかと思います。



● コンテナ苗を用いた一貫作業システム実証試験地では、冒頭センターから概要説明を行い、その後、森林総合研究所林業工学研究領域チーム長(山田健さん)から「低コスト再造林のために(伐採・造林一貫作業システム)」について、概要説明をしていただきました。また、研修生にはコンテナ苗植栽専用器具を体験していただきました。



● 当センター研修室において、H25及びH26に実施した一貫作業システム現地検討会でのデモンストレーション(伐採から植付まで)ビデオを見ていただき、一連の作業行程を理解していただきました。また、様々なコンテナを見て、触っていただきました。



平成27年10月22日(センター研修室でグループ討議等)

● 講義と実習内容を踏まえ、実習テーマである複層林施業、長期育成循環施業、針広混交林施業、コンテナ苗を活用した一貫作業システムを取り上げてグループ討議を行いました。

討議は、森林総合研究所群落動態研究室主任研究員(太田敬之さん)の助言等をいただきながら、架空の町の森林を想定し、循環的な木材生産における森林施業方法、知見、技術等の課題と解決策等は何かという視点で、グループ討議・発表・全体討議を実施しました。



森林技術総合研修所より

「全行程が終了し、おかげさまで有意義な研修とすることができました。研修生もみな元気に帰って行きました。」とお礼を頂きました。